

2022（令和4）年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492400161	事業の開始年月日	平成23年9月1日
		指定年月日	平成23年9月1日
法人名	株式会社ケアネット徳洲会		
事業所名	グループホーム円蔵		
所在地	( 253-0084 ) 茅ヶ崎市円蔵2-7-6		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和4年10月20日	評価結果 市町村受理日	令和5年5月19日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「入居様を生活の主体者としての支援」を目指して、出来る事は継続し、生活に参加できる支援を実践し、生活の中での役割と生きがいを持って暮らせるよう心がけております。自宅で暮らすのと同じように食事作りやお掃除・お洗濯等の日常生活を身近に感じながら、またご近所や地域の皆様とふれあう事で地域住民の一員としての生活をしています。大きな行事はもちろんのこと、お誕生会や季節の行事を皆様で楽しみながら、笑顔あふれる生活が出来るようにしています。医療法人が展開するグループホームの為、医療との連携も敏速に取れることから「看取り」までの介護が受けられますので、もう一つのご自宅として安心した生活が出来ます。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和5年3月28日	評価機関 評価決定日	令和5年5月10日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、JR相模線「北茅ヶ崎」駅から徒歩約10分の閑静な住宅地にあります。建物は鉄筋コンクリート造り3階建て、その1階部分にあります。2、3階に同一法人が運営する介護付き有料老人ホーム「スマイルコート円蔵」を併設しています。

<優れている点>

管理者は日常業務に入り、職員の意見や提案を受け入れ運営に反映させています。また、日常業務の軽減化や職員間の人間関係づくりに留意し、職員の疲労やストレス解消を心掛け良好な就業環境づくりに注力しています。安全対策委員会を始めとする6つの各種委員会を設置し各職員が参加、活動し、事業所運営に活かしています。身体拘束廃止や虐待防止に積極的に取り組み、令和6年度義務化の「利用者の人権の尊重、虐待の防止等のための措置」を講じており、運営規程に定めています。身体拘束等適正化委員会・虐待防止検討委員会を毎月開催すると共に研修を定期的に実施し、虐待の芽チェックリスト等を活用し職員の理解を深め防止に努めています。

<工夫点>

職員が気付いたことを何でも自由に書ける「職員ノート」があり共有し、活用しています。支援方法が「こっちの方が良かった」や、「〇〇を見たら笑顔がみられた」など、何でも自由に書き込めるノートとなっています。出勤時に全職員が確認し、サインをするようにしています。モニタリングは、日勤者が毎日実施して記録し、月に1回のカンファレンス時に確認するようにしています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム円蔵
ユニット名	Aユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	✓	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	✓	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	✓	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	✓	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	✓	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	✓	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	✓	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	✓	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	✓	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	✓	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	✓	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	✓	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	✓	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	当社独自の理念・倫理綱領を朝礼時に唱和し、職員一同共有し、ご入居者様が生活の主体となるように1人1人の役割や楽しみを見つけ出す支援を実施している。	事業所独自の理念はありませんが、管理者と職員は法人理念を共有し利用者の支援を行っています。	事業所独自の理念の作成が期待されます。地域密着型サービスとして事業所が目指すサービスのあり方や基本的な考え方を示した理念を作成し、全職員で共有し実践されることが期待されます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	感染対策の為、花火大会鑑賞会や納涼祭等近隣の方をご招待できないが、施設内でミニ夏祭りを開催している。毎日のお散歩や買い物により近隣との顔見知りの関係ができています。	コロナ禍前は自治会行事への参加、幼稚園や中学校、地域ボランティアとの交流、事業所行事への招待など積極的に地域交流に取り組んでいましたが現在は中止しています。事業所を非常災害時の一時避難場所として提供しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症の人の理解やホームでの生活の様子がわかるように日々の生活の様子を運営推進会議等で見て頂いている。随時、地域の方々から認知症の相談を受けている。地域の運動会や防災訓練実施時には実際に関わる機会を設け接してもらう工夫をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議でご提案して頂いた活動などを、取り入れ入居者の生活範囲の拡大につなげている。感染対策の為、各委員を入れての会議は開催できないが、現在取り組んでいる内容についても報告し、ご意見やご質問に対して回答している。	コロナ禍で運営推進会議は書面開催で2ヶ月に1回定期的実施しています。議事録、活動報告書は各委員に郵送し、その都度意見や質問を収集し、回答しています。コロナ感染やワクチン接種状況、面会制限、事故対応などについて意見や問い合わせがあります。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の担当者に必ず、運営推進会議の活動報告書と議事録を送付し運営の様子を伝えている。市からの研修や会合へ積極的に参加している。認定更新時等に市の担当者に生活の様子を伝え連携を深めている。	介護認定更新手続きや事故報告書提出、運営推進会議議事録提出、困難事例相談、市の研修や会合参加などを通じて茅ヶ崎市役所の関係部署とは協力関係を築き、連携しています。介護相談員2名の訪問を毎月受け入れ連携しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束等適正化委員会を毎月実施すると共に職員にも研修の中でチェックシートを実施し理解を深めるとともに身体拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束等適正化のための指針を整備し、毎月身体拘束等適正化委員会を開催、年2回研修を実施し、職員の理解を深めています。現在、危険防止のため止むを得ず夜間使用中の「人感センサー」について、委員会やカンファレンスで使用の経過、適否を協議し改善を検討しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会を中心に研修を行い不適切なケアがなされていないか、また虐待行為を発見した時の通報義務等を周知徹底している。	虐待防止検討委員会を毎月開催し、研修を行うと共に「虐待の芽チェックリスト」等を活用し不適切ケアの防止に努めています。虐待防止に関する責任者を専任し運営規程に明記しています。トイレや入浴支援時の職員の態度や口調が適切か否か検討しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する研修を実施し、理解を深めている。入居者のケースにより随時職員への説明も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	見学时、申込時、契約時に必ず説明をしている。料金やリスク、重度化や看取りの対応方針、医療連携等についても説明し同意を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	個別に問いかけたり、聞き出すようにしている。日常の会話の中で、思っている事などを聞き、意見や発案はできるだけ前向きに反映できるようにしている。毎年ご家族向けのアンケートを実施し、ご家族からのご意見やご要望を反映したケアを行っている。	コロナ禍で家族の面会を中止していましたが、今年の3月中旬から制限はありますが再開しています。管理者が応対し、利用者状況を伝え、意見や要望を聞く機会を設けています。家族から要請があった協力医療機関から入居前の主治医への変更に応じています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は現場で過ごす時間をできるだけ多くし、職員の健康状態と精神状態の把握に気を付けている。職員同士の人間関係を把握するように努めている。本社からの職員アンケートや個人面談等で意見を聞く機会を設けている。	管理者は日頃から職員と話し合い、ユニット会議で職員の意見や要望、提案を協議し運営に反映させています。6委員会（安全対策、ケア向上、苦情・防災、感染予防・衛生、身体拘束適正化、虐待防止）に各職員が参加、活動し事業所運営に活かしています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	評価シートに基づき個人面談を行い、離職防止に努め、希望や意見を聞き反映できるように努めている。ハラスメント研修や腰痛予防の研修を行っている。各ユニットで会議を行い業務の効率化等について取り組みを行っている。	全職員に人事考課、面談を実施し就業意欲の向上を図っています。管理者は職員の業務の軽減化、職員の間人関係づくりに配慮した運営に努めています。休日、休暇の取得に配慮し、過重勤務にならない勤務シフトの編成に留意しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	資格取得に向けた法人内の実務者研修や外部研修等への参加、毎月の内部研修の実施を継続して行っている。研修報告は全員が閲覧できるようにしている。	年間研修計画に基づき毎月研修を実施し研修報告書を提出させ、未受講者にも研修資料を配布し、報告書を提出させています。資格取得支援、外部研修受講費用の援助があり、2次研修も実施しています。新入職員にはベテラン職員が付きOJTで育成しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	市の連絡協議会への参加により、他施設との交流や情報の収集ができています。法人内・グループ法人内の職種別研修や施設別研修等で多施設との交流や情報収集ができています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人・ご家族・在宅ケアマネからの情報により生活状況の把握をしている。入居後はゆっくりとご本人とお話しし、安心できるように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時において家族との信頼関係が築けるよう、来訪時に入居後の生活の様子を報告。又、ご家族が見て感じている事をお聞きしている。入居後の次の朝にはご家族に連絡し翌朝までの様子を報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前の状況をお聞きしながら、本人の状態を把握し、不安が少なく過ごせるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	1人1人のできる事や好きな事を把握し、生活活動へ積極的に参加ができるようにし、役割を持って頂くようにしている。入居者それぞれのやり方を優先しつつ共同して行えるようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居者・職員が共に支えあって生活している事を職員も認識できていおり、ご家族にも伝えることができています。ご家族が来訪時にはお茶等を提供し、ゆっくりと過ごせるようにしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	知人や友人に積極的に来ていただいている。近隣への散歩や買い物に行くことで馴染みの関係が築けるようにしている。なじみの環境へ行ける努力を行っている。	コロナ禍前は馴染みの人の来訪があり、外出したり、リビングや居室で時間制限なくゆっくりと過ごして貰っています。現在は玄関前での対応となっています。入居前からの趣味である手芸や裁縫、刺し子などの継続支援を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクリエーションや生活活動を通してコミュニケーションの機会を増やしている。利用者同士の関わりを見守り尊重している。トラブルが起こりそうな時は未然に間に入り防ぐようにしている。入居者同士が活発に関わり合うことができる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	疾患により退去後も、定期的に連絡しご本人・家族の経過を把握し相談・支援の機会を作っている。他施設に入居される際は情報を提供している。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	好きな事、嫌いなこと・得意な事などを把握することやかかわりの中で言葉や表現などから気持ちを察するようにしている。何気ない言葉や表情を記録に残し、職員が共有し気持ちを汲み取れるようにしている。気づきを共有できる工夫を心がけている。	入居前に本人・家族が書く本人の情報を基本としています。入居後は好きな事や嫌いな事、得意な事や苦手な事を聞き取り、職員ノートで共有しています。表出できない人は、本人の言葉や表情から思いを汲み取り、支援するようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族からの情報収集や日々のご本人の会話からも情報収集をおこなっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	1人1人の生活リズムや年間の体調リズム等を把握している。できる事や好きな事に注目し有する能力が発揮できるようにしている。何もする事がない状態をなるべく作らないようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的なカンファレンスとモニタリングを実施し、チームにて気づきを多面的にそれぞれの関わり方を工夫して提案している。ご本人には日頃の関わりの中で思いや意見を汲み取り反映している。ご家族には生活の様子を伝えた上で思いや意見を聞き作成している。	日勤者が毎日モニタリングを行い、月1回のカンファレンスで、職員間でモニタリングを行っています。支援方法の変更などは職員ノートで共有して、毎日出勤時に確認しています。状態変更時は、家族・本人に説明して介護計画を随時変更しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の暮らしの様子や体調を記録し、情報を共有できるようにしている。スタッフ間の申し送りを必ず行うようにしている。カンファレンスを定期的に行い実施し情報の共有ができるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族の状況に応じて通院付添や送迎、買い物等、可能な範囲で柔軟に対応している。面会時間により一緒にお茶やおやつを摂って頂いたり、レクリエーションに参加して頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議に自治会長や包括支援センターの方などに参加して頂くことで情報を頂いている。又、地域の行事や小学校の行事にも招待して頂いている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご家族・ご本人の希望や体調によりかかりつけ医の選択をして頂き、必要により書面で生活の様子を医師に報告している。又、受診の支援を実施している。	以前のかかりつけ医か、月に2回の訪問医のどちらかを選択しています。歯科医と看護師は週に1回訪問して、利用者の歯や健康管理を行っています。協力病院の専門の科や他の病院の受診時に、家族対応が難しい場合は、施設の職員が対応する体制もあります。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	月2回、訪問看護師の来訪により日々の健康管理の実施、医療面での相談・助言・対応を行ってもらっている。体調異変時等は電話にて24時間何時でも報告し、来訪看護や電話指示を受けて支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族と共に退院調整会議への参加にて退院後の留意事項や医師からの状態報告を聞くことで把握している。入院時に定期的に病院相談員に連絡し、退院目途や状況の情報収集を実施し早期に退院できるようにしている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期の意向を確認。その時にはご家族・医師・訪問看護師との話し合いの場を設け、方針を決めた上で介護士を含め支援に取り組んでいる。	看取りに関する指針を作成しています。重度化した時は、医師が本人の状態を、管理者が事業所での対応を家族に説明し、看取りの対応をしています。看取専用の巡視記録に1時間おきの状態を記載しています。職員は研修を受け、終了後はデスクカンファレンスを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救急時の手順マニュアルを作成し、必要時にすぐに対応できるようにしている。研修にて救急時の対応を学んでいる。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	マニュアルを作成し掲示している。定期的に防災訓練の実施することで、スタッフ全員が参加できるようにしている。運営推進会議を利用し、地域の方を含めた防災訓練を実施している。又、地域の防災訓練にも職員が参加。防災用品の定期的点検を行っている。	防災訓練は年2回行い、1回は夜間想定での訓練を行っています。地域の人を含めた防災訓練の相談をしています。非常災害用備蓄品は法人が管理して、期限が近くなると新しい備蓄品を補充しています。リストに従って、事業所で保管しています。	非常災害用備蓄品は法人が管理していますが、備蓄品リストの整備、保管場所や保管方法の検討をして、夜間帯の非常時にも備えられる事が期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	気持ちを察しながら、さりげない声かけの工夫をし、聞き苦しい言葉がないように配慮している。言葉かけについて委員会でも検討している。	利用者には苗字にさん付けて呼んでおり、希望があれば名前にさん付にしています。敬語で話す事を基本としています。信頼関係ができていくがゆえの家族のような声掛けをしないように、気を付けています。入浴や排泄介助時には希望者により同性介助にしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	生活の中で選択をする機会を提供できるようおやつや飲み物、レクリエーションへの参加等の声かけを実施し尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	希望により居室での食事提供やお散歩・お買い物等の支援などを行っている。一人での時間も大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	月1回の理美容。希望により入浴時の毛染め支援や行事の際にはお化粧品支援を実施。外出時の衣服選びを一緒に行ったりしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	ご入居者を主体として食事作りの実施。切る・調理・味見・盛り付け・片づけを役割分担しながら実施している。入居者と職員が一緒にお話をしながら家庭的な雰囲気になるようにしている。	昼食と夕食は手作りを基本として、利用者も食器拭きなどを手伝っています。節分、ひなまつりなどの行事食は食べたい物を中心にファストフードや宅配、テイクアウトも利用しています。白玉だんごやクレープのおやつ作りも楽しみの一つとなっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの摂取量や嗜好を把握し栄養が確保できるようにしている。定期的な体重測定を実施し栄養状態の目安としている。水分量も確認して脱水や便秘等にならないように注意し、それぞれの摂取しやすいもので個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケア用品の準備、促しと個々に必要な支援を実施している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄管理表の作成により個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導や声かけを行うことで清潔の保持と自立を支援している。	排泄管理表による個々の排泄時間、態度や仕草でトイレへの声掛けや誘導を行っています。一人ひとりの状況に合わせて、時には職員3人で介助するなど、トイレでの排泄を大切にしています。夜間帯は転倒予防の為、ポータブルトイレでの支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分補給に留意し、補給がしっかりとできるようにしている。取れない方には水分内容を工夫し確保できるようにしている。運動量を心がけている。牛乳の積極的摂取の取り組みをしている。人によりヤクルトを購入し飲んで頂いている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	清潔を保持できるよう定期的、週2回以上の実施と共に希望により入浴。皮膚の乾燥がある方には入浴剤等を使用し保湿と入浴を楽しめるようにしている。	入浴は週に2回入浴しています。皮膚の保湿の為の入浴剤も使用しています。清潔保持のため毎回湯の入れ替えをしています。浴槽をまたぐのが困難な人には2人介助を行い、湯船に入ってリラックスしてもらえるようにしています。入浴が嫌いな人には、「洋服を洗濯しましょう」などと声掛けの工夫をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の活動を強化し生活リズムを整えている。入眠時間の工夫（夕食後にゆっくりとお話し時間を持つ）により夜間に良く眠れるように支援。室温調整・加湿器等の設置をし、居室環境の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬説明書の保管、職員が内容を把握できるようにしている。服薬マニュアルの作成とトリプルチェックにより誤薬が防げるようにしている。症状の変化を観察し随時医師へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	「してもらおう介護」を念頭におき一人一人の役割や楽しみを意識して支援している。職員から入居者に「ありがとう」を言う介護をすることで生きがいを持って頂いている。やりたいことを伺いながら個別に関われる時間を持つよう心掛けている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	お散歩やお買い物等、希望があれば出かけられるように支援している。ご本人の希望をご家族に伝え出かけられるように支援している。	事業所周辺の散歩や屋上での外気浴を行っています。下肢筋力維持のために階段を上る人もいます。本人の要望で、1対1で短時間の買い物に出かけたり、河津桜を見に職員とドライブを楽しんだりしています。また、家族と墓参りにも出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お買い物の際は1人1人にお金を渡し、ご自分で選んだものに対して支払をして頂くようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	玄関に郵便局の方が取りに来てくれるポストの設置、各ユニットに電話を設置している。事前にご家族と相談し、希望によりお話が出来るようにしている。			
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を取り入れた、壁紙づくりや活動の写真などを掲示。トイレ内は毎日必ず清掃し、不快感なく利用できるようにしている。リビングは明るく清潔感が持てるようにしている。	職員と制作した作品や季節感のある作品を飾っています。行事の時の楽しかった事を思い出してもらうように写真を壁に掲示しています。掃除は利用者も一緒にモップ掛けをしています。トイレは夜間に職員が掃除をしています。エアコン、加湿器も使用し、窓は開けて換気もしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにはご自分の食席と自由に座れるソファ、一人でゆっくりと過ごせる居室（個室）、リビングと回路式の廊下を囲んだ個室となっており、個室に居ながらも人の気配を感じられ安心できるようにしている。居室ドアにはプライバシーに配慮した小窓がある。			
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご自宅で使用されていた使い慣れた家具や衣服・お布団など、そしてご仏壇等もご持参して頂いて、出来る限りご自宅に近い環境を作っている。ご自分の部屋と分かりやすいよう表札と写真を作成させていただいている。	居室はエアコン、ベッド、カーテンが備え付けとなっています。タンスやイス、テーブル、テレビや位牌などを持ち込んでいます。化粧品や好きな小物を並べたり、写真を飾って自分らしい部屋にしています。居室担当は1年間で交代し、衣類の整理・整頓を手伝っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室内の家具の配置工夫をし安全に動くことができるように工夫している。（手すりの代わりに椅子や家具を適切な場所に置く）			

事業所名	グループホーム円蔵
ユニット名	Bユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	✓	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	✓	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	✓	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	✓	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	✓	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	✓	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	✓	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	✓	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	✓	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	✓	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	✓	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	✓	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	✓	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	当社独自の理念・倫理綱領を朝礼時に唱和し、職員一同共有し、ご入居者様が生活の主体となるように1人1人の役割や楽しみを見つけ出す支援を実施している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	感染対策の為、花火大会鑑賞会や納涼祭等近隣の方をご招待できないが、施設内でミニ夏祭りを開催している。毎日のお散歩や買い物により近隣との顔見知りの関係ができています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症の人の理解やホームでの生活の様子がわかるように日々の生活の様子を運営推進会議等で見て頂いている。随時、地域の方々から認知症の相談を受けている。地域の運動会や防災訓練実施時には実際に関わる機会を設け接してもらおう工夫をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議でご提案して頂いた活動などを、取り入れ入居者の生活範囲の拡大につなげている。感染対策の為、各委員を入れての会議は開催できないが、現在取り組んでいる内容についても報告し、ご意見やご質問に対して回答している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の担当者に必ず、運営推進会議の活動報告書と議事録を送付し運営の様子を伝えている。市からの研修や会合へ積極的に参加している。認定更新時等に市の担当者に生活の様子を伝え連携を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束等適正化委員会を毎月実施すると共に職員にも研修の中でチェックシートを実施し理解を深めるとともに身体拘束等をしないケアに取り組んでいる。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会を中心に研修を行い不適切なケアがなされていないか、また虐待行為を発見した時の通報義務等を周知徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する研修を実施し、理解を深めている。入居者のケースにより随時職員への説明も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	見学时、申込時、契約時に必ず説明をしている。料金やリスク、重度化や看取りの対応方針、医療連携等についても説明し同意を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	個別に問いかけたり、聞き出すようにしている。日常の会話の中で、思っている事などを聞き、意見や発案はできるだけ前向きに反映できるようにしている。毎年ご家族向けのアンケートを実施し、ご家族からのご意見やご要望を反映したケアを行っている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は現場で過ごす時間をできるだけ多くし、職員の健康状態と精神状態の把握に気を付けている。職員同士の人間関係を把握するように努めている。本社からの職員アンケートや個人面談等で意見を聞く機会を設けている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	評価シートに基づき個人面談を行い、離職防止に努め、希望や意見を聞き反映できるように努めている。ハラスメント研修や腰痛予防の研修を行っている。各ユニットで会議を行い業務の効率化等について取り組みを行っている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	資格取得に向けた法人内の実務者研修や外部研修等への参加、毎月の内部研修の実施を継続して行っている。研修報告は全員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	市の連絡協議会への参加により、他施設との交流や情報の収集ができています。法人内・グループ法人内の職種別研修や施設別研修等で多施設との交流や情報収集ができています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に楽しく本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人・ご家族・在宅ケアマネからの情報により生活状況の把握をしている。入居後はゆっくりとご本人とお話しし、安心できるように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時において家族との信頼関係が築けるよう、来訪時に入居後の生活の様子を報告。又、ご家族が見て感じている事をお聞きしている。入居後の次の朝にはご家族に連絡し翌朝までの様子を報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前の状況をお聞きしながら、本人の状態を把握し、不安が少なく過ごせるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	1人1人のできる事や好きな事を把握し、生活活動へ積極的に参加ができるようにし、役割を持って頂くようにしている。入居者それぞれのやり方を優先しつつ共同して行えるようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居者・職員が共に支えあって生活している事を職員も認識できている。ご家族にも伝えることができている。ご家族が来訪時にはお茶等を提供し、ゆっくりと過ごせるようにしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	知人や友人に積極的に来ていただいている。近隣への散歩や買い物に行くことで馴染みの関係が築けるようにしている。なじみの環境へ行ける努力を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクリエーションや生活活動を通してコミュニケーションの機会を増やしている。利用者同士の関わりを見守り尊重している。トラブルが起こりそうな時は未然に間に入り防ぐようにしている。入居者同士が活発に関わり合うことができている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	疾患により退去後も、定期的に連絡しご本人・家族の経過を把握し相談・支援の機会を作っている。他施設に入居される際は情報を提供している。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	好きな事、嫌いなこと・得意な事などを把握することやかかわりの中で言葉や表現などから気持ちを察するようにしている。何気ない言葉や表情を記録に残し、職員が共有し気持ちを汲み取れる様にしている。気づきを共有できる工夫を心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族からの情報収集や日々のご本人の会話からも情報収集をおこなっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	1人1人の生活リズムや年間の体調リズム等を把握している。できる事や好きな事に注目し有する能力が発揮できるようにしている。何もする事が無い状態をなるべく作らないようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的なカンファレンスとモニタリングを実施し、チームにて気づきを多面的にそれぞれの関わり方を工夫して提案している。ご本人には日頃の関わりの中で思いや意見を汲み取り反映している。ご家族には生活の様子を伝えた上で思いや意見を聞き作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の暮らしの様子や体調を記録し、情報を共有できるようにしている。スタッフ間の申し送りを必ず行うようにしている。カンファレンスを定期的実施し情報の共有ができるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族の状況に応じて通院付添や送迎、買い物等、可能な範囲で柔軟に対応している。面会時間により一緒にお茶やおやつを摂って頂いたり、レクリエーションに参加して頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議に自治会長や包括支援センターの方などに参加して頂くことで情報を頂いている。又、地域の行事や小学校の行事にも招待して頂いている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご家族・ご本人の希望や体調によりかかりつけ医の選択をして頂き、必要により書面で生活の様子を医師に報告している。又、受診の支援を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	月2回、訪問看護師の来訪により日々の健康管理の実施、医療面での相談・助言・対応を行ってもらっている。体調異変時等は電話にて24時間何時でも報告し、来訪看護や電話指示を受けて支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族と共に退院調整会議への参加にて退院後の留意事項や医師からの状態報告を聞くことで把握している。入院時に定期的に病院相談員に連絡し、退院目途や状況の情報収集を実施し早期に退院できるようにしている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期の意向を確認。その時にはご家族・医師・訪問看護師との話し合いの場を設け、方針を決めた上で介護士を含め支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救急時の手順マニュアルを作成し、必要時にすぐに対応できるようにしている。研修にて救急時の対応を学んでいる。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	マニュアルを作成し掲示している。定期的に防災訓練の実施することで、スタッフ全員が参加できるようにしている。運営推進会議を利用し、地域の方を含めた防災訓練を実施している。又、地域の防災訓練にも職員が参加。防災用品の定期的点検を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	気持ちを察しながら、さりげない声かけの工夫をし、聞き苦しい言葉がないように配慮している。言葉かけについて委員会でも検討している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	生活の中で選択をする機会を提供できるようおやつや飲み物、レクリエーションへの参加等の声かけを実施し尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	希望により居室での食事提供やお散歩・お買い物等の支援などを行っている。一人での時間も大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	月1回の理美容。希望により入浴時の毛染め支援や行事の際にはお化粧品支援を実施。外出時の衣服選びを一緒に行ったりしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	ご入居者を主体として食事作りの実施。切る・調理・味見・盛り付け・片づけを役割分担しながら実施している。入居者と職員が一緒にお話しをしながら家庭的な雰囲気になるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの摂取量や嗜好を把握し栄養が確保できるようにしている。定期的な体重測定を実施し栄養状態の目安としている。水分量も確認して脱水や便秘等にならないように注意し、それぞれの摂取しやすいもので個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケア用品の準備、促しと個々に必要な支援を実施している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄管理表の作成により個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導や声かけを行うことで清潔の保持と自立を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分補給に留意し、補給がしっかりとできるようにしている。取れない方には水分内容を工夫し確保できるようにしている。運動量を心がけている。牛乳の積極的摂取の取り組みをしている。人によりヤクルトを購入し飲んで頂いている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	清潔を保持できるよう定期的、週2回以上の実施と共に希望により入浴。皮膚の乾燥がある方には入浴剤等を使用し保湿と入浴を楽しめるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の活動を強化し生活リズムを整えている。入眠時間の工夫（夕食後にゆっくりとお話し時間を持つ）により夜間に良く眠れるように支援。室温調整・加湿器等の設置をし、居室環境の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬説明書の保管、職員が内容を把握できるようにしている。服薬マニュアルの作成とトリプルチェックにより誤薬が防げるようにしている。症状の変化を観察し随時医師へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	「してもらおう介護」を念頭におき一人一人の役割や楽しみを意識して支援している。職員から入居者に「ありがとう」を言う介護をすることで生きがいを持って頂いている。やりたいことを伺いながら個別に関われる時間を持つよう心掛けている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	お散歩やお買い物等、希望があれば出かけられるように支援している。ご本人の希望をご家族に伝え出かけられるように支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お買い物の際は1人1人にお金を渡し、ご自分で選んだものに対して支払をして頂くようにしている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	玄関に郵便局の方が取りに来てくれるポストの設置、各ユニットに電話を設置している。事前にご家族と相談し、希望によりお話が出来るようにしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を取り入れた、壁紙づくりや活動の写真などを掲示。トイレ内は毎日必ず清掃し、不快感なく利用できるようにしている。リビングは明るく清潔感が持てるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにはご自分の食席と自由に座れるソファ、一人でゆっくりと過ごせる居室（個室）、リビングと回路式の廊下を囲んだ個室となっており、個室に居ながらも人の気配を感じられ安心できるようにしている。居室ドアにはプライバシーに配慮した小窓がある。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご自宅で使用されていた使い慣れた家具や衣服・お布団など、そしてご仏壇等もご持参して頂いて、出来る限りご自宅に近い環境を作っている。ご自分の部屋と分かりやすいよう表札と写真を作成させていただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室内の家具の配置工夫をし安全に動くことができるように工夫している。 (手すりの代わりに椅子や家具を適切な場所に置く)		

2022年度

事業所名 グループホーム円蔵

作成日： 2023 年 5月 11 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	法人の理念を心掛け日々介護業務を行っていたが、事業所独自の理念が今まで無かった。	グループホーム円蔵独自の理念の作成をし、職員に周知する。	全職員が集まれそうな日に全体ミーティングをする時間を設け意見を出し合い管理者がまとめ、理念を作成する。	2ヶ月
2	16	非常時備蓄品が少ない。本社管理になっているが実際災害が起こった時にすぐに届くのか不安。備蓄品の保管場所の整理整頓が行き届いていない。	保管場所、保管方法は誰でもわかるような場所にする。非常備蓄品の量を増やす。	月1回開催している防災委員会で保管場所、保管方法を再検討し、職員に周知する。実際災害が発生した時焦らないように見えやすい所にポスターを掲示する。非常備蓄品は本社管理の為、エリアマネージャー、本社の災害対策室に相談し再検討して頂く。	2ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月